

研修報告書

2019年 9月 30日

この度、法人研修 ～保育所保育指針について～に参加したので
その結果について、次の通り報告します。

記

◎日時 2019年 9月 21日(土) 15時～18時
◎会場 AP 横浜駅西口 6階 H1
◎講師 武蔵野大学教育学部 児童教育学科 准教授
箕輪潤子先生

◎概要

～保育所保育指針改定の背景

① 「子ども・子育て支援新制度」の施行 …… 「全ての子どもに質の高い教育・保育を提供すること」を目標にした制度

指針の中において、保育所・幼稚園・認定こども園を幼児の保育の考え方に ついては、3つの施設をも同じ位置付けとする。

② 0～2歳児を中心とした保育所利用児童数の増加

1～2歳児の保育所利用が10年前と比べ、倍となっている。

平成20年 27.6% → 現時点では 50%近くとなっている。

この10年世界の様々な子どもについての研究の中で、乳児期ととも大事!!

重要性がわかった。

③ 子ども世帯における子どもの負担・孤立感の高まり、児童虐待相談件数の増加

色々な家庭、色々な保護者を支援する考え方が入っている。

④ 幼児教育の重要性に関する様々な知見

今回の改定で最も大きい背景。乳児の子どもへの育ちが大事という研究が

与えられた。同時に幼児教育の重要性に関する研究も色々な人、証明されている。

どんな知見があるか → 25年後の社会はどのようなようになっているか?

社会は大変な時代になっている。(別紙参照)

今、私達が保育している子どもたち ^{0歳児クラス} → 25才
^{年長} → 31才

つまり、社会の中核を担う子どもたちで、今私達は、その将来のバースト
^{2025年世代に}育つ子ども ^{2025年} どんな社会に子どもたちが育つのか。子どもたちが自分の
人生を切り開き、幸せになり、そして社会の中で社会を幸せに可なり工台作り
をしていくのだと考えると上で保育をしていくことが大切!!

○ 子どもたちが将来生き残る社会。

・ 単純作業の仕事が全くなくなるわけではないうえに減少のセルフレジなど。

↳ しかし AI だけだと十分作業出来ない。人間にしか出来ないものは残りの残り。

○ どういった人が社会に必要か。社会を切り開いていく人。

※ 柔軟に考え、即座に臨機応変に問題解決、人と協力し、新しいことを生み出す。

例えば、私達の仕事という... 保護者の顔は笑っているけれど、いつも違う、声
かけ、何かあるのかと思う、少しお話しませんかと伝える、その人に応じた対応の

○ 情報の取捨選択の判断、くみあわせ、情報を使う。

※ 勉強成果だけでなく、価値感とは違うものが必要。

↳ 非認知能力が将来、認知能力と合わせて必要になってくる。

非認知能力 (別紙参照)

① 目標の達成 (忍耐が必要... 耐えるだけじゃなく、成功したことを楽しむことが出来る)

② 情動の制御 (自分とうまくやっていくこと)

③ 他者との協働 (他の人とうまくやっていくこと)

○ 非認知能力がなぜ大切か?

アキバの調査、経済的に余裕なく、幼児教育を受けることが
出来ない貧困世帯の 3.4歳 120人 を 2群に分けた。

① 週3回 / 日30時間、2年間通う。 ② 何もしない

且 / 家庭訪問あり。

↓↓ 40年後まで追いかけて。

①の子は ②の子より家が高い、年収が高い。 ②の子は 犯罪率が高い。

↑↑ ①の子は ②の子より家が高い、年収が高い。 ②の子は 犯罪率が高い。

↑↑ ①の子は ②の子より家が高い、年収が高い。 ②の子は 犯罪率が高い。

↑↑ ①の子は ②の子より家が高い、年収が高い。 ②の子は 犯罪率が高い。

↑↑ ①の子は ②の子より家が高い、年収が高い。 ②の子は 犯罪率が高い。

～ 保育所 保育指針の基本的な考え～

区分が変更された。① 守らなければならぬもの ② 出来るだけ守るようにする。③ 各園で工夫する。

第一章 総則 → それ以降の章の土台になるものという意味
 ↳ 今までの同じように保育所の保育ということに大切にしなければいけないものは変わらない。

そのため環境を通じて行う保育の重要性という側面から考えた時に……
 各国 写真公開 ○ 下、上に分れる子。砂場に入らぬのに入る子どもたちなど。

→ 園ごとの経験出来ないうち、乳児期 - 幼児期ごとの経験出来段階

自然との出会い、雨の音、風のおいしさ、何度も同じことをする。

異年齢の子に関わり → 環境提供、構成 → 再構築。

○ 養護が前に出てきた理由。○ 保育長時間。○ 低年齢

※ 養護と教育を一体的に行うことをそのため考える!!

例えば、ほうれん草おいしいよ。先生の表情から安心感。ほうれん草という食べ物を知り
 くっつくよという言葉が加わった。安心し、その子らしく過ごせるようにする。 教育

○ 保育の計画及び評価 全体的な計画 ← もんごんとそらえり

保育というものは行きあたりぼりではなく、特に幼児を教育してゆく施設だといふことは関わり、子どもの発達にあたり、状況あたり、しっかり把握し、それに基づいて計画を行ってゆく。計画 → 実践 → ^(評価) 評価をふまえた計画の改善が加わった。

～ 乳児・3歳未満児保育の記載の充実～

○ 低年齢児の保育が増加。○ 乳児期の重要性の研究が明らかに
 ↳ 乳児・3歳未満児についてしっかりと記載したことが大きな変更点!!
 発達には、個々でも、クラスでも違う。また行きつよどりつする部分もふまえて、子どもの様子で各園で充実させてほしいといふことで区分を大きくくくりにした。

中 乳児

心身の発達の基盤が形成される極めて重要な時期。

赤ちゃんと泣く(11月) 大人が応答。どんなに小さくても子どもの言葉。

「お母さんが泣く」など 気持ちを受け取って応答的に返す。大人に
対しての信頼感、大人が好き、快にしてみよう。大好きな気持ち

育ち。一緒にものをみよ。楽しませよ。情緒的の子供が形成され、様々な
関心心が向かう。主体的に関わっていきよう。→ 学びのめばえ
受容的・応答的に行われる保育の重要性!!

※ 1歳以上 3歳未満児

自分の体を思ふように動かすことが出来、言葉の発達を促す。

自分とした。自分という気持ちで自我の育ちとともに出て
くるので、尊重しながらかく見守る。受容的・応答的に関わり。

先生の受容的・応答的な関わりの中で、安心感をもって活動の範囲を

人やものとの関わりを広げたり、深めたりしてゆく。豊かな経験重なり

～ 幼児教育の積極的な位置付け～

・ 育ちの資質・能力

認知 [知識及び技能の基礎

能力 思考力、判断力、表現力等の基礎

} 相互に関連して育つ

非認知能力 学ぶに向かう力、人間性等

能力

何を学ぶかから、学んだことをどう活かすかへ

3つの柱は、幼児教育から高校までをつなげるもの。

小学校学習指導要領にしっかり組み込まれた。

幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿は、到達ではなく、

あくまで5領域で経験したと、5歳には出てくるであろう姿ということ。

10の姿と5領域の関わり

① 健康な心と体 } 健康

② 自立心

⑤ 社会生活との関わり

⑥ 思考力のめばえ

⑦ 自然との関わり・生命尊重

③ 協同性

④ 道徳力・規範意識のめばえ

} 人間関係

⑧ 数量・図形・文字等への関心・かみかき

⑨ 言葉による伝え合い

⑩ 豊かな感性と表現 } 表現

} 環境

} 言葉

幼児

～保育の内容～

- ・5つの領域に関する学びが重要、重要は1歳以上3歳未満児の方が大きい。
- ・発達の種類や重さの上に、3歳以上児のやり及ぶ内容あり。
- ・乳児や1歳以上3歳未満児の連続性は捉えよと大事。
- ・この時期、子ども同士の関わりとか集団での遊びが中心。個と集団はそれぞれお互いに発展しあってゆく。関連しあって^{生活}育つてゆくことを意識する。一人一人の子どもを大切にすることは変わらない！！

★保育の内容の変更点のうち特に重要なポイント

見通しをもつて行動する... 今回の改定の一つのキーワード「主体性」
 非認知能力を育つことは、子どもが主体で、自分で考えたり、柔軟に行動したり出来るということ。主体的に子どもたちが遊んだり生活することの方が大事。先生は「こうだよ、次こうだよ」というように動くのではなく、「次どうするかな、だから自分は今こうしよう」と見通しをもつ安全についての構え... 危ないことを自分たちが遊ばせ通してゆかせる。ゆかせる^{を身に付けて}ようにしてゆく。棒をもつのを危ないというのではなく、危なくないもち方をするなど。

子どもの育ちを色々な視点から考える！！

～子育て支援の章の新設～

子育てには、保護者自身の主体性、自己決定の尊重。
 保護者に決定権があり、子どもによりよい決定になるよう、
 保護者が支援してゆく。保護者と子どもの育ちを喜びあわせていく。
 そのために ○保護者との信頼関係の構築 ○日々の会話、
 ○園生活などのコミュニケーション ○先生、「こんなことをやってますよ」ということ。うちの子をこういう風にみてるかと、相互理解になる。

～職員、資質向上～

一人一人の保育者が園の中でどういう風に育つてゆくのか、ということ。

職員一人一人が専門性をどう見据えて中々のか、どういう役割を園の中では果たして中々のか、園全体が育って中々のことを重視。

トップの先生が頑張るのだけではなく、ミドルの先生たちや自分たちの保育をどうして中々のか、若い先生とトップの先生をつないで中々のか、今後求められて中々のか、若い先生こそ、自分の役割を考えたや、自分の考えを言ったや、それを拾い、園全体で資質向上する。研修で学んだことを実践にもどす。

～感想～

保育所保育指針の内容を難しく考えていたが、箕輪先生の講演がわかりやすく、楽しめた。参考した写真の子どもの様子から、子どものどのような姿が読みとれよか、何が育って中々のかや考えるワークはとて興味深かった。先生の提示した、「今の子どもたちは25年後どのような社会で、どのような生きよか」という言葉に、私が今担任させてもらっている2歳児クラスの子どもたちが27歳となって、大変な社会を生きよか姿を想像した。未来の社会の中核を担って中々の子どもたちを、日々の保育を通じて大切に育って中々のかと思った。今回の改定のキーワードとなった“主体性”を育って中々のかためには、日々子どもの思いに耳を傾け、自分でやよかという思いを尊重し、達成感が味わよかや、個々の出来よかとは大いにほめ、決まらなよかには優しく支援して中々のかや、信頼関係をよかや、毎日の園生活が楽しく、くよかやご自分らしよかや出せよかやに、育って中々のかや保育者よかやあった。その為にも研修に参加し、自己研鑽を重よかやと思う。